Y17
2949

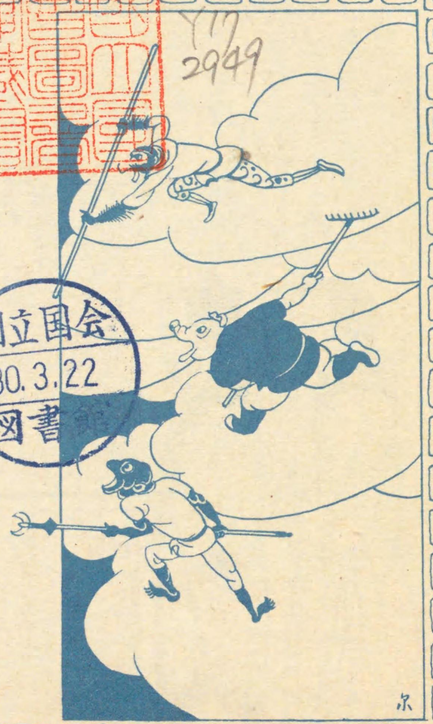
Y17
2949

# 繪本西遊記 中

水島爾保布
文・弓館芳夫

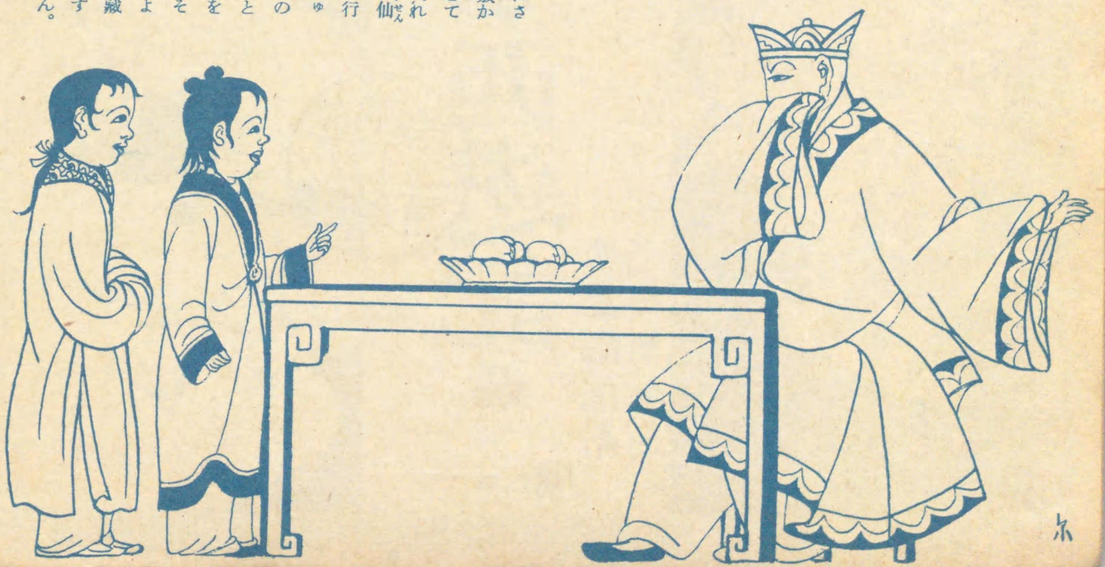
国立国会
30.3.22
図書

簡 5077



## 氣味の惡い果物

旅路をかさねて万壽山にさしかかると、大きな屋敷から、二人の子供がでてきていねいに一行を招き入れました。『主人の鎭元大仙は留守中ですが、天竺に行く和尙樣が見えたら、じゅうぶんおもてなしろとの言付けでございました』と三藏の前に珍らしい果物を持ってきました。見るとそれは生れて三日もたたぬような赤ん坊ですから、三藏は顏をそむけていくらすすめてもたべようとしません。



## 人參果を食い荒す

これは、人參果と呼ぶここの庭の特產物で、一つ喰べると四万八千年も壽命が延びるという珍らしい果物です。悟空は八戒と悟淨をそそのかして、裏の庭に行き、たらふく喰べ荒したあげく、しょうこをなくすために、根こそぎ抜きたおし、三藏にはうまく言いつくろって、スタコラ屋敷を逃げ出しました。

**法衣の中に吸込まれる**

逃げて行く途中、行き会った鎮元大仙は、ちゃんとこのことを見ぬいている。『コラッ人参果泥棒！いっしょに帰って木をもとの通りにいたせ』『いいえ、私たちは何もぞんじませんので……』と言訳する悟空をまっさきに、一同を法衣の中に吸込み、ゆうゆうと引あげました。

**悟空油揚げの釜入り**

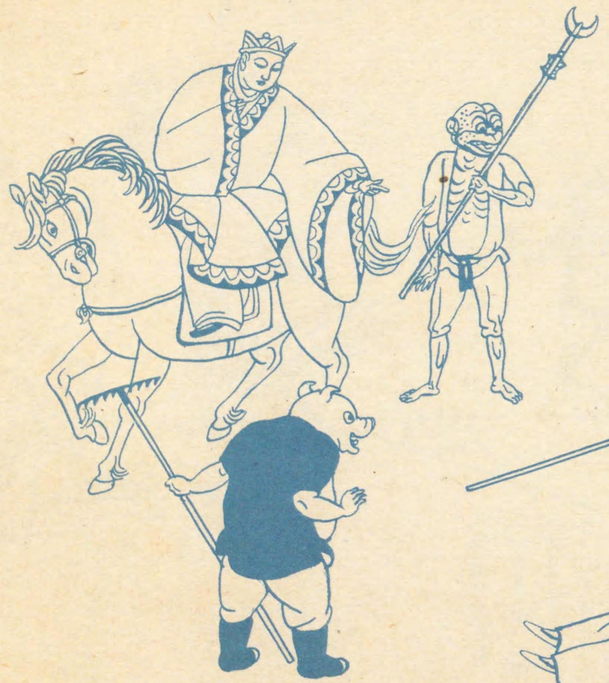
悟空は罪を一人でひき受け、最初に鞭の刑を受けましたが、からだを鉄のように堅くして、平氣で打たれています。次の油揚げの刑には、大石に身を変えて、釜の底を割るといったぐあいで、まったく、手がつけられません。大仙はカンカンに怒って『じゃあ、あの三藏和尚を天ぷらにしてしまえ！』

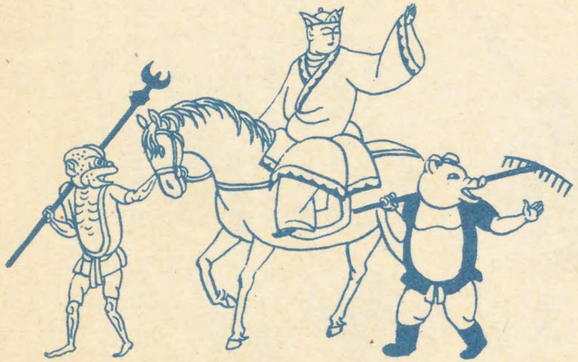
## 人参果生きかえる

三蔵をやられてはたいへん。三日間だけ待ってくださいと泣いてお願いし、観音様の所へ行って、人参果をもと通りにする方法をおたずねします。観音様は簡単にお引受けになって、鎮元邸においでになり瓶の甘露水を根にそそぎ、湧き出た水を柳の枝にひたしてふりかけると、たちまち枝や葉が生えて、二十三個の人参果がもと通りにみのりました。

## 悟空破門さる

古語に「山高ければ必ず怪あり」とある通り、行手の白虎嶺に妖怪が住んでいました。美人に化けて三蔵を待受け、斎飯をさしあげようとしたのを、妖怪と見抜いた悟空は、一撃の下にやっつけてしまいました。三蔵は妖怪とは知らぬから、悟空の乱暴を怒って破門を言渡し、どんなに言訳しても、うけつけません。





## 百花羞に救わる

一行三人になって碗子山まで來たとき、ちょっと油斷したすきに、三藏は波月洞の青面魔王に生捕られてしまった。

魔王の妻百花羞は、もと宝象國の王女で、十余年前さらわれてきたものですが、うまく夫をだまして三藏を救い、兩親への手紙をたのんで、逃がしてくれました。

## 三藏大虎になる

後でそれと知った青面は、宝象國に飛んで行き、身を貨公子に変えて、國王の前に參上しました。

三藏の姿を見つけると『そこにいる和尚は虎の化物ですぞ』とののしりながら、黒眼定身の法を使って、プーッと水を吹きかけるや、三藏は見るまに大虎に変りました。

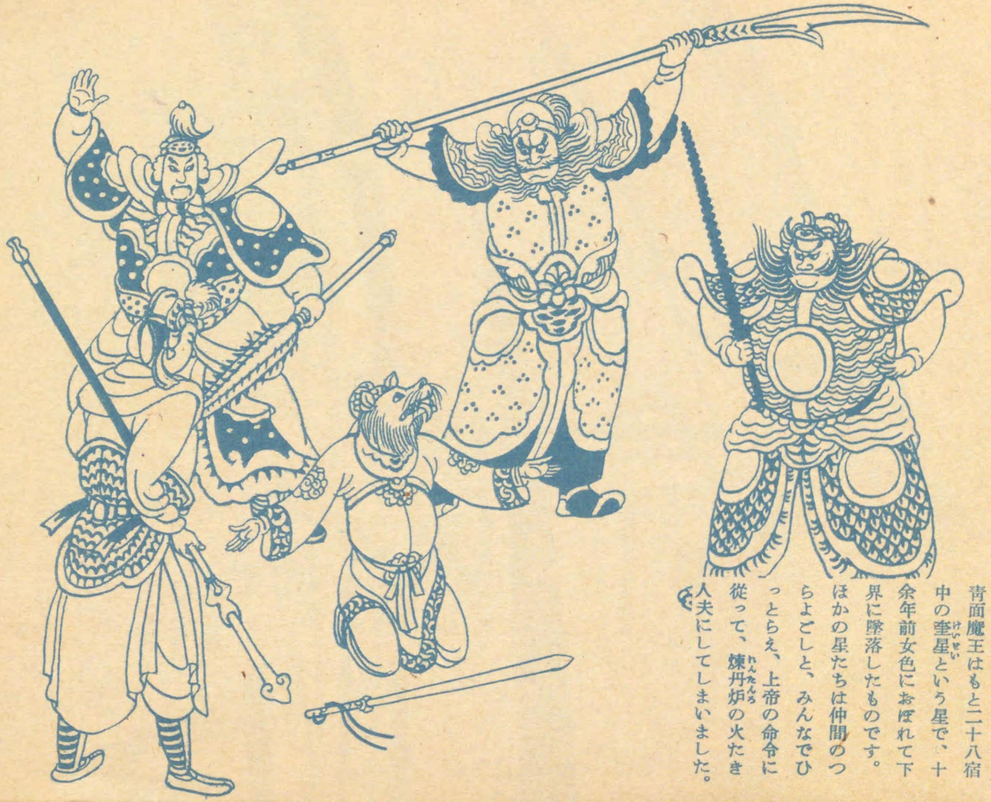
貴公子の正体

貴公子になった魔王は、たいしたもてかたで、大勢の官女にかしずかれ、酒をあおっていたが、いつかよっぱらって狼の正体に帰り、モリモリ官女を喰い殺してしまった。

うまやにいた三蔵の乗馬は、姿を官女に変じて、剣の舞にことよせ、魔王に斬りつけたが、かえって傷をおわされるしまつです。

悟空の助太刀

八戒と悟浄が相談したすえ、悟空に助太刀を頼む外はないと、八戒が使者になって、水簾洞に謹慎中の悟空に逢いに行きました。三蔵の身に変りがあったと聞いては、たいへんです。急いで波月洞(はげつどう)にかけつけ、百花羞の姿になって、魔王に近づきいきなり一撃くわせると、魔王はアッと叫んで空中に逃げさった。



青面魔王の正体

青面魔王はもと二十八宿中の奎星（けいせい）という星で、十余年前女色におぼれて下界に墜落したものです。ほかの星たちは仲間のつらよごしと、みんなでひっとらえ、上帝の命令に従って、煉丹炉（れんたんろ）の火たき人夫にしてしまいました。

三藏元の姿にかえる

魔王の方はかたづいたのですが、虎になった三藏が残っています。悟空はさっそく王宮に飛んで行き、三藏の顔に水をふりかけ、何やら呪文をとなえると、魔王の術が破れ、和尚の身にかえりました。三藏はこれまでのいきさつを聞いて、悟空をゆるし、打ちそろって西方へ旅立ちます。

## 八戒生捕られる

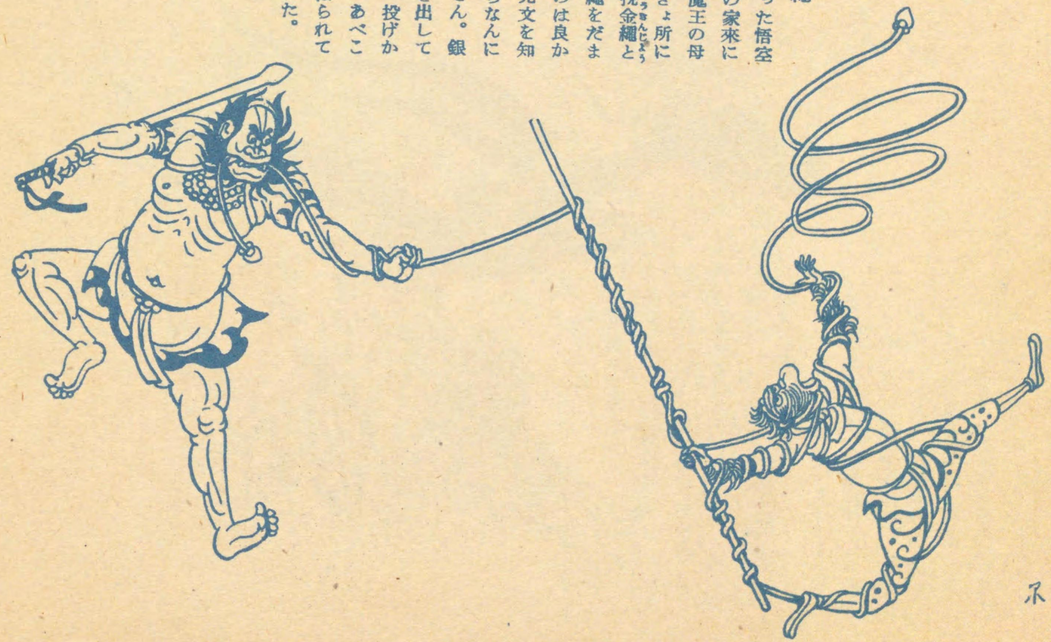
途中土民の口から、行手の平頂山蓮華洞に金角銀角と呼ぶ兄弟の魔王がおって一行の来るのを待ちかまえているという噂を聞きました。そこで念のため八戒をせっこうに出したところ、だらしのないやつで草の中でひるねをして、魔王につかまり、いくらまっても戻ってきません。

## 悟空おしつぶさる

そこへ道士に化けた銀角が、びっこひき現われました。見ると足に傷を受けていかにも痛そうなので情深い三蔵は、悟空にしょっていきなさいと言いつけました。悟空は怪しいやつとにらみましたが、すなおに命に従い、すきがあったら投げ殺そうとします。銀角はそれと氣づき大山になって悟空を押しつぶし、三蔵と悟淨をつかまえて蓮華洞へ引上げました。身動き出來ぬ悟空は、くやし泣きに泣いていると、土地の守り神たちが聞き山をはね上げて、救いだしてくれました。

## 投げ縄

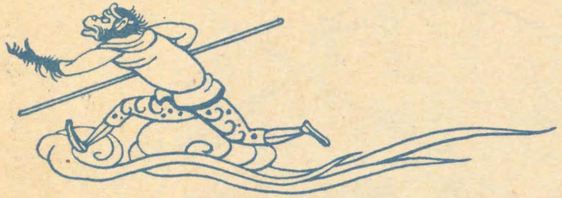
自由になった悟空は、魔王の家来に化けて、魔王の母親のいんきょ所に出かけ、捉金縄（そくきんじょう）という投げ縄をだましとったのは良かったが、呪文を知らないからなんにもなりません。銀角をおびき出して戦ううち、投げかけた縄で、あべこべに、しばられてしまいました。

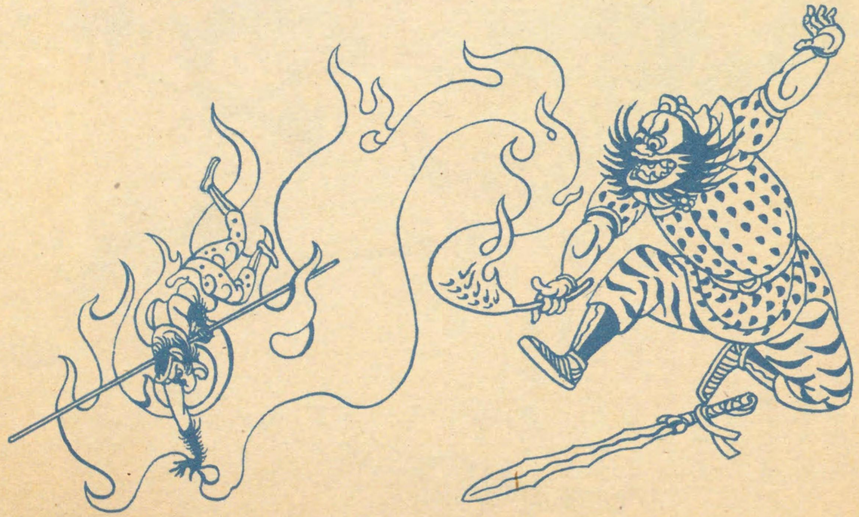




## 火を吐く扇

悟空は牢番のすきを見て縄を切り逃げ出すと、代って出てきた金角はふところから芭蕉扇（ばしょうせん）をとり出し、サッとあおげばあたりは火の海となる。悟空は身外身の法で逃げ出します。





不思議なひょうたん

そこへ金角銀角が帰ってきたが、何が来てももう大丈夫です。悟空はひょうたんを持って雲の上に舞上り、家来の声色を使って、『金角様に銀角様』と呼ぶと『オウ』と答えるが早いか、両魔王はスルスルひょうたんの口に吸込まれてしまいました。一同大喜びで、愉快な朝飯を終り勇んで出立のじゅんびにとりかかる。

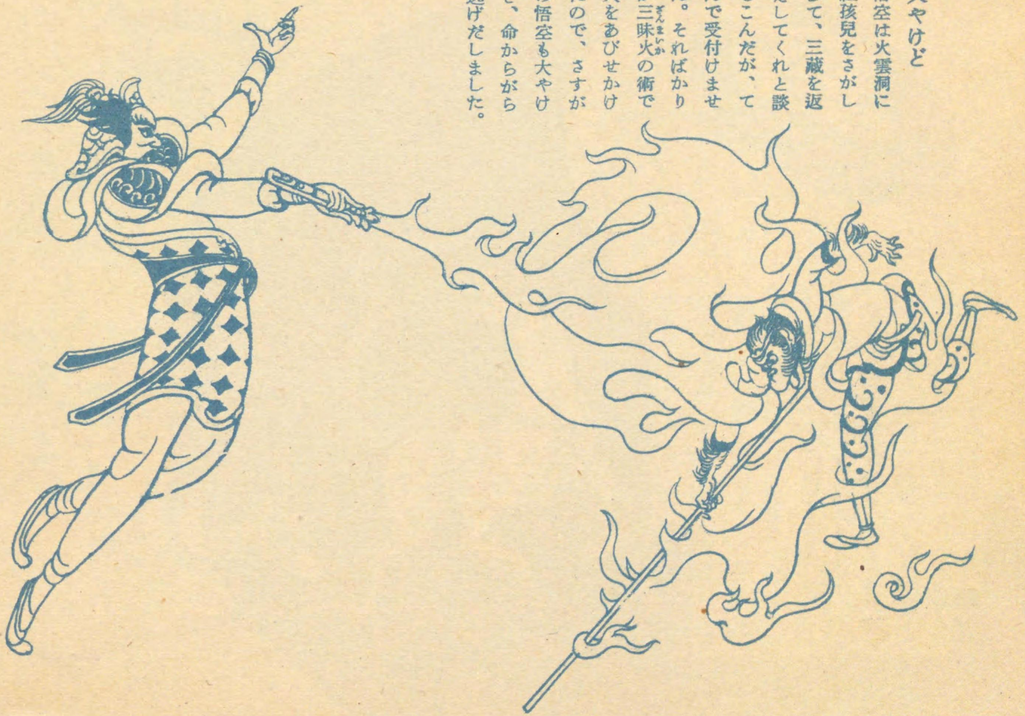
三蔵を救いだすほら穴に残っていた家来をかたっぱしからたたき殺し、三蔵たちのつながれている所を見つけて、救いだしました。そのうえ置き忘れてある捉金縄や七星剣、人を吸いこむひょうたんまでぶんどったからこわいものはない。

金角銀角の化の皮

そこへ東方から飛んで來た太上老君『オイ悟空どん、その宝物はわしに返しておくれ』『それはまたどういう訳です』『ひょうたんも芭蕉扇もつぼも縄も、みなわしの煉炭炉で使う道具だ。その二人は召使いの子供で、先だって持逃げしたんだよ』『そうですかい、じゃお返ししましょう』正体の判った兄弟はすごすごと老君に従って帰りました。

三藏つむじ風にさらわる

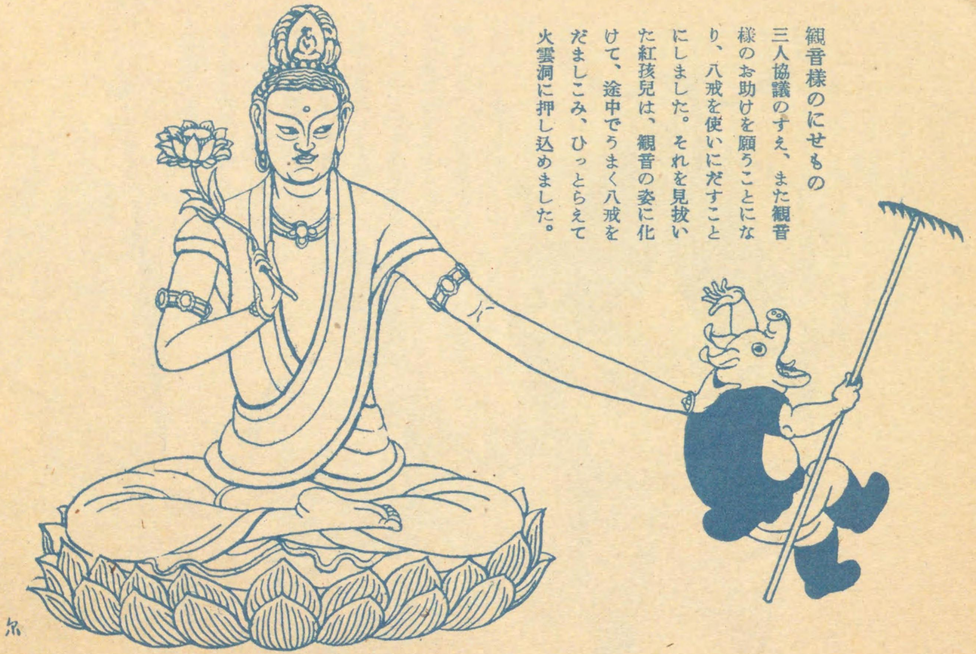
ここに火雲洞に住む紅孩兒と呼ぶ青年の化物、両親を失った孤兒に化けて、一行を待受け、あわれみをこいました。三藏はかわいそうに思い、悟空におんぶさせましたが、やがて化物は背中で石地藏に変り、本身は空中に舞上って、つむじ風をまき起し、八戒悟淨が地面に伏せっているまに、三藏をさらって逃げてしまい先に行っていた悟空が、心配になってもどってみると影も形も見えません。



大やけど

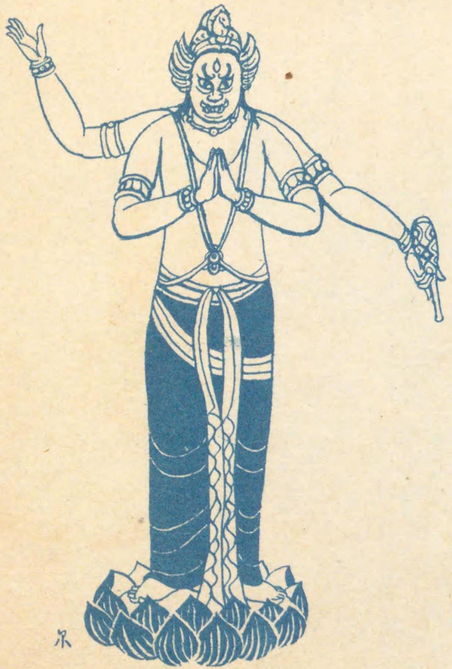
悟空は火雲洞に紅孩兒をさがしあて、三藏を返えしてくれと談じこんだが、てんで受付けません。そればかりか三昧火の術で火をあびせかけたので、さすがの悟空も大やけど、命からがら逃げだしました。





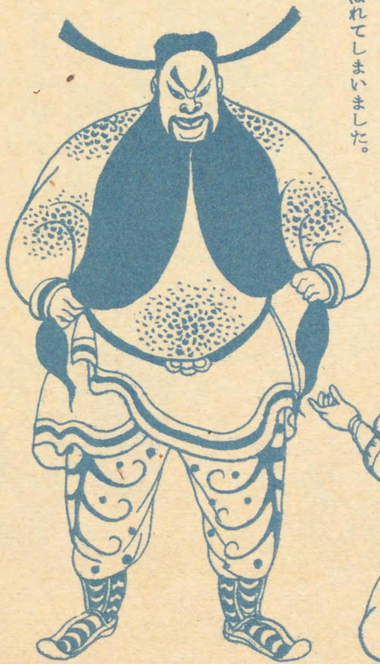
観音様のにせもの

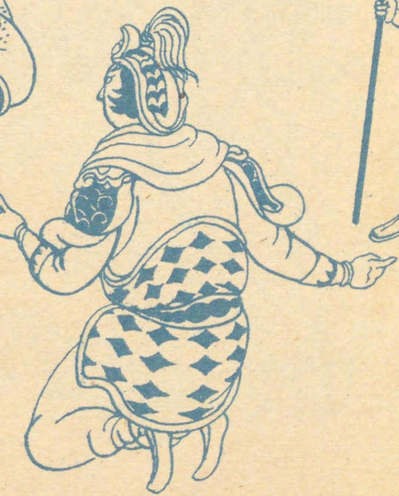
三人協議のすえ、また観音様のお助けを願うことになり、八戒を使いにだすことにしました。それを見抜いた紅孩兒は、観音の姿に化けて、途中でうまく八戒をだましこみ、ひっとらえて火雲洞に押し込めました。



悔い改めた紅孩兒

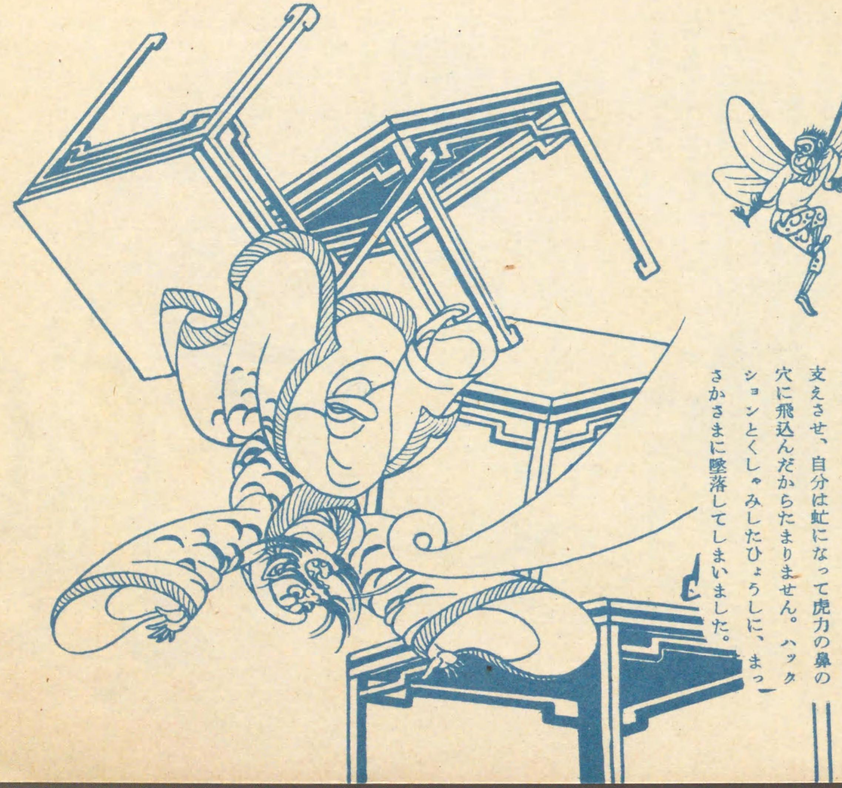
仕方がないから、自分が觀音様をお迎えに行き、火雲洞の前に歸っておびき出しにかかります。脇ちほこった紅孩兒は門外にとび出し、觀音がわざと置き忘れた蓮台の上に坐ったと見るや、蓮の花びらが三十六本の劍に変り、ブツブツ脚の肉に食入ったからたまりません。ひめいをあげて降參し、觀音様にはんべる童子になりました。





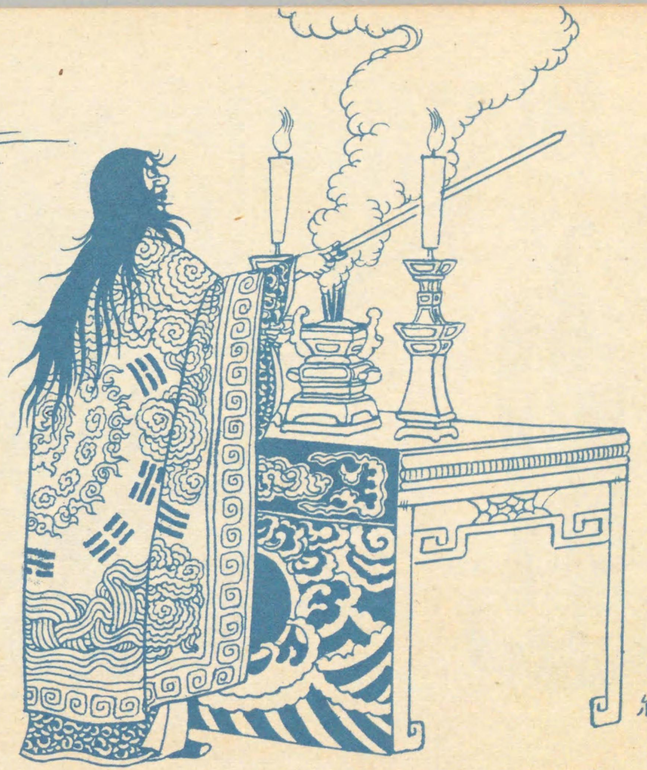
牛魔王に変身

困りはてた悟空は、紅孩兒の父親牛魔王に身を変え火雲洞を訪れると、紅孩兒は大喜びで、三藏を料理してごちそうしようどいたします。悟空はあわててことわったので、また正体がばれてしまいました。



坐禪台からまっさかさま

面目がまるつぶれになった虎力は、それではと五十の食卓を積重ねた上で坐禪する競爭をすることになりました。悟空は承知して、雲に化けた八戒悟淨に三藏を支えさせ、自分は虹になって虎力の鼻の穴に飛込んだからたまりません。ハックションとくしゃみしたひょうしに、まっさかさまに墜落してしまいました。

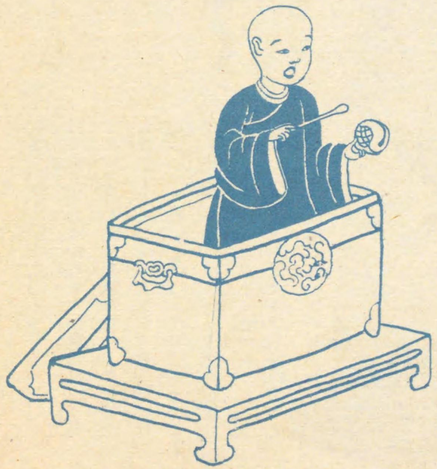


雨ごいの腕くらべ

數ケ月の後車遲國に入ると、虎力、鹿力、羊力と呼ぶ三人の仙人が、國王にとりいって權力をふるい、人民を苦しめておりますから、悟空はこれをこらしめてやろうと、おりしも日照り続きだったので、雨ごいの腕くらべを申しこみました。虎力はもったいぶって祭だんの前で祈りましたが、一てきも降りません。それもそのはず、悟空が、あらかじめ雨の神にたのんでおいたがらで、三藏にかわって、祈るとたちまち雨がざあっと降ってきました。

## 箱の中の物あて

鹿力と羊力は、兄きのたびたびの失敗を見て、くやしくてたまりません。こんどは「箱の中の物あてくらべ」ときたが、悟空は南京虫になって、中を調べてきて、いちいち三蔵に耳打ちしますので間違いっこなし。悪仙人はこれでも散々の敗北です。





## 首斬りくらべ

かわって、傷のなおった虎力が、斬った首をつぎ合せる、とって置きの藝くらべ。悟空は平氣で首を斬られ胴体だけで踊りながら、虎力の首を鶩に変ってどこかへ持逃げしたので、斬り口から血があふれて死んでしまいます。弟二人も正体をあらわして退治されました。

## 三藏川の中へ落ちこむ

よく朝、出かけようとすると、まだ秋なのに大雪が降って、川には氷がはりつめています。一行はその上を渡って行くうち、突然氷がわれて、三藏は川の中に吸込まれてしまいました。申すまでもなく、すべて魚の化物の仕わざなのです。



## 魚の化物

通天河にいる魚の化物靈感大王は毎年雨を降らすかわりに、農家から子供をいけにえに出させていました。ちょうどその日にあたったので、悟空と八戒は男女の子供に変って、いけにえとなり、魚の化物が現われたところを、躍りかかって追っぱらってしまいました。

水中に化物と戦う

泳ぎの達者な八戒と悟淨が、川をもぐって探し返しに行きましたが、手ごわい相手で、二人ともタジタジです。一度水面まで おびき出したが、悟空の姿をみると、川底に逃げ帰って、もうなんどしても現われてきません。

魚怪の正体

またしても観音様の御力を借りるほかありません。そこで悟空が南海に飛び、お連れ申してくると、観音様は持って來た竹の籠を川に下げ、何やらロの中で念じたと思うと、一匹の金魚がすくい上げられました。この金魚が靈感大王の正体だったので、川底にとじこめられていた三藏も救出されました。

Y17-2949
*1200600480732*

發行所　東京都港區西芝浦三ノ二　株式會社　トッパン

25. 3. 25